

第2回本部港中長期計画(仮称)検討委員会 議事概要

日時：令和7年1月21日(火)14:00~16:00

場所：ヒルトン沖縄瀬底リゾート 2階 オーキッド

事務局から各委員意見に対する対応方針や、本計画の方向性、基本理念、中間報告について説明し、委員から意見等の発言があった。その内容は以下のとおり。

1 各委員からの主な意見と対応方針

- お客さんが滞留、滞在できるような商業施設を港内に設けることはできないのか。
- 資料1 No.9「港と学校、専門分野の教育を結び付けるのも必要ではないか」との意見に関して、20年から30年先を見据えるのであれば、回答にある「関係機関との情報共有」に加え、教育の場を強化するような対応を強く望む。
- 人材育成の方法、教育機関の設置必要性なども含め、県全体、地域全体で長期的なビジョンなどを描くことが重要である。短期的な取組としては、事務局から発言のあった、「活動の場として活用」ができることを、関係者で共有していくことがよいと考える。できることを一緒に取り組んでいく、そういう雰囲気づくりが、まずは第一歩と考える。
- 資料1 No.26「北部地域の観光に関する本部港の方向性を国、県、町の全体構想でも取り入れて欲しい」との意見に関して、本部港は観光としての要素も非常に強いと考えている。今回の委員会に国、県の観光を担う部署が入っていないことから、ヒアリング等を実施いただき、観光施策との整合を図る必要がある。

2 本部港中長期計画(仮称) 方向性、基本理念

【物流・産業】

- 本部地区(旧塩川地区)を貨物専用の港湾として整備することで、中長期的に本部港の活性化が図れると考える。

【交流・賑わい】

- 個人レベルの意見交換になるが、伊平屋村、伊是名村の方から、「本部港を利用したい」との意見を10年来聞いている。
- 過去に伊平屋村、伊是名村のフェリーが運天港へ移転した経緯等を把握する必要がある。
- 渡久地地区(旧本港地区)は、駐車場問題を有しているが、水納島航路、那覇航路の就航により、少しは賑わっていると思う。移転すると寂しくなると感じる。
- 本部港の計画の中で、運天港からの航路移転を取り扱ってよいのか疑問である。
- 航路の集約については、対象となる船社、関係者の考え、そして運天港の港湾計画との整合を把握する必要がある。
- 伊平屋村、伊是名村のフェリーが本部港を利用することについて、島民の希望に寄り添うことが、第一義的なことだと考える。港湾と接続する陸上交通も含め、全体利便性が最適化されている港湾が、望まれる港湾だと考える。
- 航路集約については、本部地区(旧本港地区)船だまりの拡張整備、荒天時の安全な避泊への対応が必要と考える。航路を集約すること自体は、賑わいの創出、利便性の向上から非常に喜ばしいことと考える。

- 本部地区(旧本港地区)は、駐車場も含め集約に対応できる施設の確保が難しいと考える。
- 伊江島航路、伊平屋島航路、伊是名島航路は、本部港を利用してもらいたい。現在の港湾施設を拡張する考えもあるが、将来のビジョンとしては、新たな港湾があってもよいと考える。
- 3離島と一緒に係留できることは、大変ありがたいことだが、経済的、地理的な観点から、これだけの大規模な整備が可能なのか。
- 航路を集約する場合、交通渋滞の発生、駐車場不足が懸念されることから、その対応も同時進行で行う必要がある。
- 本部地区(旧本港地区)は、物流と人流が両立する計画にするべきと考える。現在、クルーズと物流のエリアが重複している。クルーズバースを栈橋式で南側へ伸ばし、クルーズ専用バースを確保することで、物流と人流の両立が図られると考える。
- クルーズ船の受入れにおいて、CIQ へ対応できるターミナルが必要である。ターミナルがないと、せっかく整備したクルーズバースが活かされないと考える。
- 国土交通省港湾局において、クルーズ船に対応した施設規模等のマニュアル化に向けた取組をしている。本部港でも参考にしながら検討を行うとよい。
- 渡久地地区(旧エキスポ地区)にジェットfoilが就航予定である。就航に必要な整備を県にはお願いしたい。
- 渡久地地区(旧エキスポ地区)には、将来的にヨットハーバー等の整備をしていただきたい。

【安全・安心】

- 本部港へ航路を集約した場合においても荒天時の避泊は、本部港ではなく、運天港を利用することになると考える。

【持続可能な開発】

- 糸満ファーマーズのような、農畜産物と海産物を取り扱う施設が港湾にあると、賑わいが創出されると考える。駐車場が確保できる場所が、集客の観点から適している。
- 沖縄の産業の予測や、本部港に関連する項目の推計等を提示して欲しい。しっかりとシミュレーションをしながら、必要な機能、施設規模、配置等を考える必要がある。
- 港湾利用を各港湾の目的に合うよう機能再編を図ることで、4地区7箇所が機能的に回り、色々な港湾が創出ができると考える。

3 本部港中長期計画(仮称)【中間報告】

将来像、基本戦略、主要施策、取り組み、空間利用計画(ゾーニング)(案)

- 具体的な計画期間を設定した方がよいと考える。計画最終年度のイメージ、計画ボリュームを捉えることができる。

以上